



令和2年春の花育の日は食育・花育センターにて「水耕栽培キット作り体験」を行います。好きなカイワレ系の種を選んで水耕栽培をはじめてみよう！！

日時 令和2年4月19日(日)

① 10:00~ ② 13:30~

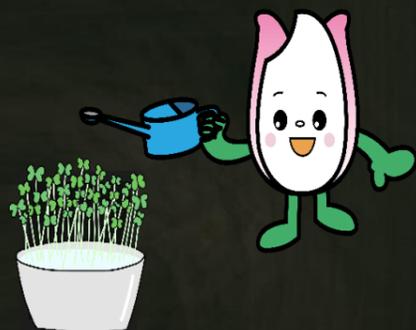
場所 食育・花育センター

参加人数 各回先着30組

各回開始30分前から整理券配布

参加費無料 | 家族1セット

※新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合がございます。



◎食と花の推進課は古町へ引っ越します

農林水産部は現在の白山浦庁舎からふるまち庁舎古町ルフル(大和跡地再開発ビル)4階に移ります。

業務開始日・・・令和2年5月7日(木)

食と花の推進課に御用の方は、5月7日からはふるまち庁舎にお越しください。

◆ふるまち庁舎住所◆

新潟市中央区古町通7番町1010番地



<発行・問合せ> 新潟市農林水産部 食と花の推進課 食育・花育担当

〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602番地1 Tel: 025-226-1792

E-mail: shokuhana@city.niigata.lg.jp

【花育通信 Vol.35 2020年3月発行】

にいがた

花育通信

Vol.35

- Contents -

◎花育俳句

◎花育 NEWS



記念日に新潟の花を贈ろうキャンペーン「愛妻の日」メインアレンジメントより

令和元年度

花育俳句

「食と花の政令市」である新潟市は、**花**を通じて心を**育**む＝**花育**を推進しています。「花育」という言葉を皆様に身近に感じていただくため、昨年8月から11月まで「**花**や**緑**」が入った俳句を花育俳句とし募集を行いました。新潟市をはじめ、北は北海道、南は鹿児島県まで、543句が集まり、食育・花育センターにて全作品を展示し人気投票を行った中で人気の高かった句をご紹介します。

フェネルの実を食べつくしアゲハ羽化 新潟市西蒲区 七十代 女性	悲しみも液肥となりて秋の薔薇 新潟市江南区 六十代 女性	去り難き越後の空や稲の花 新潟市秋葉区 五十代 男性	ウオーキング顔あげ探す金木犀 新潟市西区 六十代 女性	君は知らないあの日渡したりナリアの意味 東京学館新潟高校 文芸部 女子	香りまでスケッチしましたきんもくせい 山口県高千帆小学校 五年生 男子	「ママ、あげる」ダリアのかんむりでおひめさま 山口県高千帆小学校 一年生 男子	向日葵や太陽を向き長話 新潟市西蒲区 六年生 男子	チューリップその花さけば春が来る 新潟市東区 四年生 男子	夏の朝 朝顔さいた笑ってる 新潟市東区 三年生 女子
かきのもと茹で色の良し菊脛 新潟市南区 七十代 女性	子育てに頑張る君よガーベラよ 新潟市江南区 六十代 女性	秋桜が揺れて迎えるいくとぴあ 新潟市西区 女性	チューリップ咲く頃にまた孫が来る 千葉県船橋市 七十代 女性	月光の射し込む庭に白き百合 宮崎市 七十代 女性	<div data-bbox="1567 961 2329 1369" data-label="Text"> <p>私も一句詠んでみたい!と思ったみなさま 令和2年度も花育俳句の募集を予定しています。 詳細決定後、市報にいがたやホームページで お知らせしますので待っていてくださいね。</p> </div> <div data-bbox="2448 934 2864 1323" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="2478 1323 2864 1396" data-label="Caption"> <p>新潟市食育・花育推進キャラクター まいかちゃん</p> </div>				

花育俳句応募全作品は新潟市ホームページで見ることができます。

～それぞれの花育俳句～

<エピソード1> ～Tさん 宮城県石巻市 50代 男性～
 「咲いた後 期待してます 実と子ども」
 Tさんは2011年に起きた東日本大震災で自宅、職場を被災し、大切な友人を失いました。それ以後、その友人の分までいろいろなことにチャレンジしようと決意し、その中の一つが俳句でした。
 Tさんの未来への想いがわかる句ですね。
 これからもどんどん新たなチャレンジを楽しんでください。

<エピソード2> ～Yさん 大阪府高槻市 40代 女性～
 「失敗は 花壇作りの いい肥やし」 「元気ない 人を元気に する花壇」
 Yさんは心の病で長い間ひきこもりの生活をおくっていました。しかし警察関係の川柳募集で全国2位になったことをきっかけに地域のおまわりさんとお話をするようになり、交番周りの清掃をすすめられたそうです。「行くなら毎日行く」と決め、通いました。ある日「ここに花壇作って見たら？」の声にYさんは新たな挑戦をはじめます。自分で植物を育てた経験も少なく、最初は失敗もたくさんあったそうです。せっかく咲いた花をイタズラされたことも何度もありました。しかし、Yさんはあきらめず花壇作りを続け5年目を迎えています。今では地域の方やおまわりさんに花壇の花で元気をプレゼントしているそうです。
 花を通じて心を育む＝花育を実感できる俳句とエピソード、ありがとうございました。